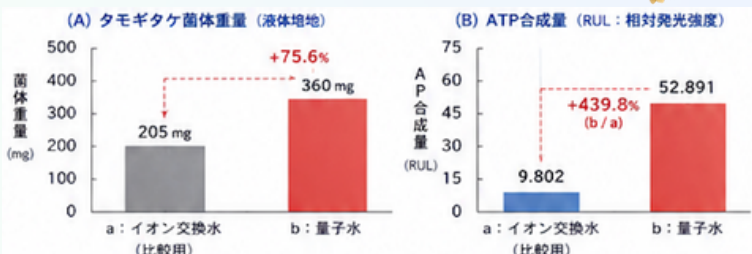


量子水の現象と学術的裏付けについて

量子水により起こる特筆すべき事象

ミトコンドリアATPが活性化する

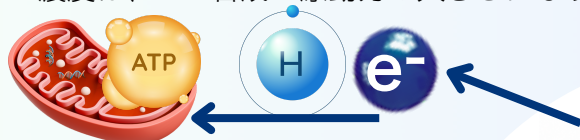


※ ν G7の通水回数が多い方が活性度が上がることが実証されています。

【出典】特許第5704671号「タモギタケの生育方法」

電子(e^-)の流れが H^+ を膜間控へ送ります。

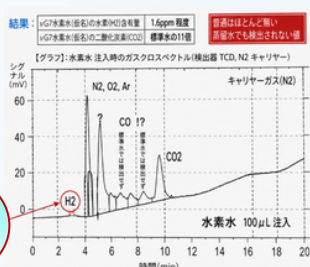
H^+ 濃度は、ATP合成の原動力の大きさになります。



気泡から水素を検出

(ガスクロマトグラフィーによる分析)

サンプル: ν G7水素水 (仮名)、蒸留水
分析条件 装置本体GC-390 GL-Science製
分析カラム GasukuroPack54 60/80 SUS
インジェクション温度 260°C
検出器温度 150°C
カラム温度 40°C、5min (気体成分のみ条件)
サンプル量 100 μ L (気体・液体共有)



【出典】M高専調べ

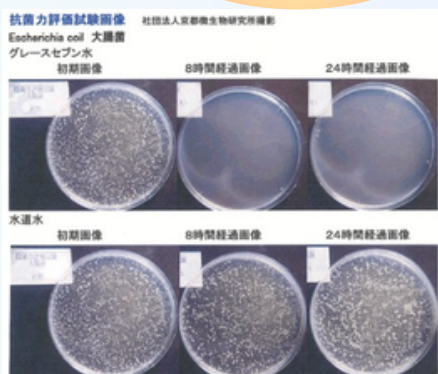
静菌作用がある

ν G7量子水では、24時間経過後、

- ・大腸菌
- ・黄色ブドウ球菌
- ・レジオネラ菌
- ・サルモネラ菌

が100%減少で検出されませんでした。

ノロウイルスにおいても抗ウイルス効果が確認されています。

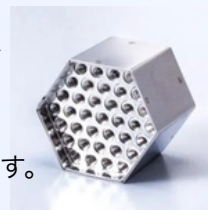


菌は+に帯電

【出典】京都微生物研究所 ν G7水抗菌力評価試験結果報告書

学術的裏付けに関連する理論

近年、ヘキサゴンコアを通水した量子水がもたらす様々な事象について、学術的に説明できる理論が確立してきました。電子レベルの仕組みが解明されてきています。



episode

2013年に、 ν G7開発者である野村修之がスタンフォード大学の名誉教授 ウィリアム・ティラー博士を訪ねた際、わずか15分の面談の中で、博士は製品の核心であるヘキサゴンコアの自由電子の放出や、六角形(ハニカム)構造が意識と共鳴する性質について肯定的な見解を示しました。

真空状態から電子が発生する

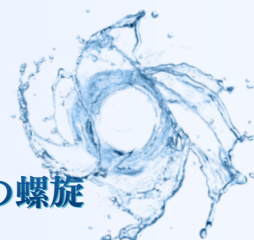
ヘキサゴンコアを通水すると、ナットとナットが擦れ合い「カシャカシャ」という音が出る。

この時、水が切られ、バブルと真空が発生する。

まさにこの瞬間に電子が発生する。

【関連文献・理論等】

物理学者 ジュリアン・シュビンガー博士
シュビンガー効果(2022年アナログ実験成功)



シャウベルガー理論ー求心性の螺旋

自然は遠心力ではなく求心力で躍動する。川が蛇行し渦を巻くように、水は内へ収束する螺旋で動く。

自然の運動の本質である。(サイクロイド螺旋運動)

冷たく・暗く・螺旋を描くとき、水は最もエネルギーが高まり「生きた水」になる。摂氏4°Cへ向かう「正の勾配」は創造、離れる「負の勾配」は分解を担う。1930年の木製「インペラー」は、水が内向きに回転する条件を整えただけで、ポンプよりはるかに少ない力で水を動かした。力で押すのではなく誘導する。 ν G7のヘキサゴンコアも同じ理論で、外から力を加えず、通過する水が自ら渦を巻いて内側へ回転し続ける。力で支配せず、条件を整えることで、最高の状態の水が生まれる。

【関連文献・理論等】

渦巻く水の超科学(ヒカルランド)